

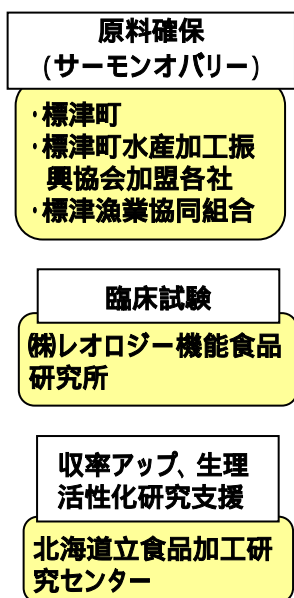
地域	北海道札幌市	認定日	平成18年10月12日	1 - 18 - 021
事業分類	製造(食料・飲料・飼料)	テーマ分類	次世代(バイオ)	

## 事業名: サケ魚卵外皮(イクラを採った皮)からアミノ酸・ペプチドを抽出製造する事業

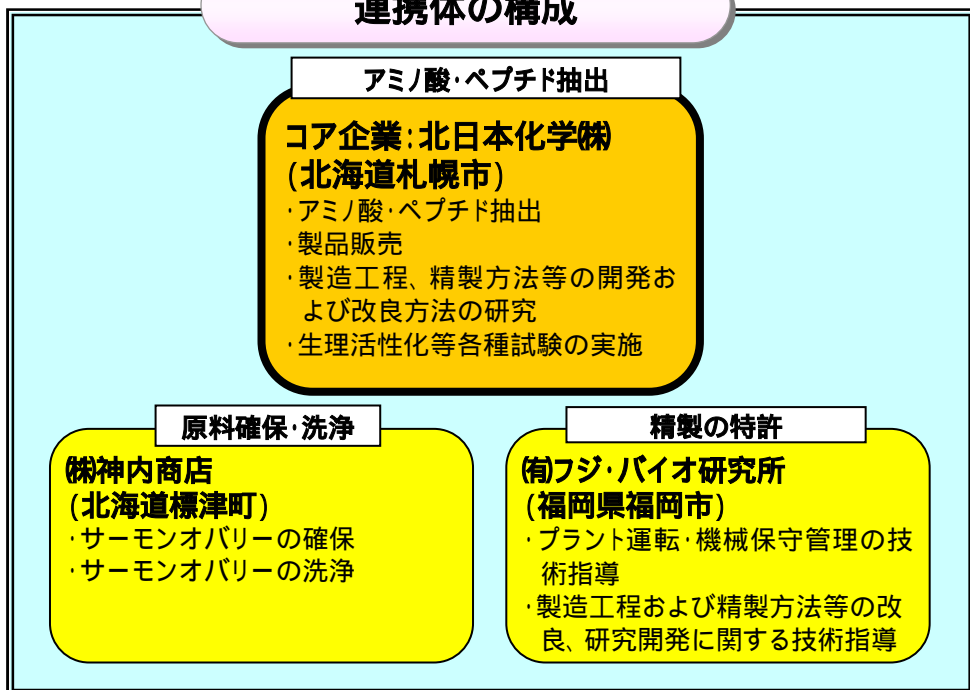
～ 標津町の地域HACCPのトレーサビリティで安全安心なサケ未利用資源を高付加価値化～  
**事業概要(新規性、市場性等)**

- ・サケのイクラ製造後の外皮(サーモンオバリー)は、未だ活用方法が存在していない未利用資源。サーモンオバリーから抽出される有用なアミノ酸・ペプチドと同様の機能を有する動物由来プラセンタエキスは、アンチエイジングおよび生活習慣病予防効果が期待され、健康食品や化粧品の原料として需要は拡大。一方、BSEへの懸念や宗教上の理由から動物由来を敬遠する消費者も増加。
- ・本事業では、化粧品を開発・販売している北日本化学(株)がコア企業となり、「魚卵巣外皮からペプチドの抽出技術」の特許を有する(有)フジ・バイオ研究所、地域HACCPに積極的な標津町で水産加工業を営む(株)神内商店が連携して、サーモンオバリー由来のアミノ酸・ペプチドを製造・販売する。
- ・健康食品や化粧品の原料として販売する予定であり、既に取り先から納品の内諾を得ている。

### 事業推進体制

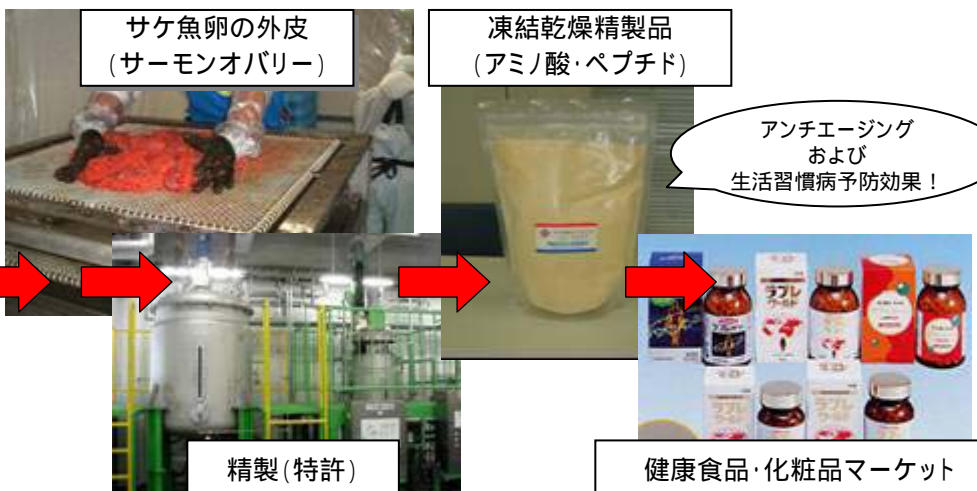


### 連携体の構成



### 支援予定メニュー

補助金  
 設備投資減税  
 信用保証



## 連携のきっかけ、特徴

- サケの産地標津町ではサケのイクラを採った残りの外皮(サーモンオバリー)は産業廃棄物として処理されており、有効な利用法を求め研究が進められていた。  
一方、(有)フジ・バイオ研究所は福岡特産の明太子の皮からアミノ酸抽出の技術を開発し特許を取得したものの、事業化するだけの原料が集まらなかったことからサケの卵外皮に着目、両者が出会い事業化への模索が始まった。
- フジ・バイオ研究所は九州の会社であることから、原材料供給地である北海道において事業主体となる地元企業が必要だったところ、化粧品開発・販売で実績をもち、新たな事業展開のため本製品の使用を求めたバイオ企業 北日本化学(株)がコア企業となることで調整し、計画が大きく進みだした。
- 原料確保には、今まで廃棄していたサケ卵外皮を保存するため地元加工業者の協力と洗浄工程を担う企業が必要であったが、標津町の協力で町の水産加工振興協会の会長を務める(株)神内商店がその役割を担うこととなり、連携に加わることで事業が本格的に始動することとなった。
- 過疎化の進む地域で産業振興のため、自治体が事業化に積極的に協力し事業実現につながった好事例といえる。

## コア企業の会社概要

企業名・代表者	北日本化学(株) 代表取締役 盛 孝男	
所在地	北海道札幌市厚別区厚別南5丁目1番7号	
創業	平成13年10月	
資本金・従業員数	4,500万円	10名
業種	仕上用・皮膚用化粧品製造業	
T E L	011-896-3300	
F A X	011-896-5577	
ホームページ	<a href="http://www.kitanichi.jp">http://www.kitanichi.jp</a>	
e-mail	a.takahasi@ost-japan.com	

## PR等その他の情報

- 本製品(魚由来)には、動物由来プラセンタ並みのアミノ酸成分が含有されている。
- サーモンオバリーはペプチドの割合が高く、肝機能を活性化させ糖尿病抑制の効果が高いとの動物実験結果が出ている。